**「あなたがたは神と富とに仕えることはできない」**

**年間第25主日・C年（16.9.18）**

**安息日はいつ終わるのか**

早速、今日の第一朗読ですが、預言者アモスの主義に対する厳しい警告を伝えております。ちなみに、このアモスですが、紀元前８世紀の中頃、北イスラエル王国で活躍した羊飼い出身の預言者であり、当時の腐敗した世の中に対して次のような痛烈な批判をあびせております。

　**「わたしはお前たちの祭りを憎み、退ける。**

**祭りの献げ物の香りも喜ばない。**

**・・・**

**正義を洪水のように**

**恵みの業を大河のように**

**尽きることなく流れさせよ。**

**・・・**

**今、お前たちは王として仰ぐ偶像やや**

**神として仰ぐ星、偶像ケワンを担ぎ回っている。**

**それらは、お前たちが勝手に造ったものだ。」（アモス5.21-26）**

さらに、今日の箇所では、主義の商人たちを、皮肉をまじえて次のように鋭く戒めております。

　**「お前たちは言う。『新月祭はいつ終わるのか、穀物を売りたいものだ。安息日はいつ終わるのか・・・弱い者をで、貧しい者を靴一足の値で買い取ろう。』」**

実は、このようなこそ、今日、まさに「排他的経済主義」によって世界中にはびこっているのではないでしょうか。その深刻な危機を、教皇フランシスコは、その使徒的勧告『福音の喜び』の中で、次のように警告しておられます。

　**「今日においては、『排他性と格差のある経済を拒否せよ』と言わなければなりません。この経済は人を殺します。路上生活に追い込まれた老人が凍死してもニュースにはならず、株式市場で二ポイントのがあれば大きく報道されることなど、あってはならないのです。これこそが排他性にほかなりません。飢えている人々がいるにもかかわらず食料か捨てられている状況を、わたしたちは許すことはできません。これが格差あるいは不平等なのです。現代ではすべてのことが、強者が弱者を食い尽くすような競争社会と適者生存の原理のもとにあります。」（53項）**

アモスの時代よりも、今日の世界がかかえている問題は、このようにさらに深刻になっていると言えましょう。

　ですから、私たちキリスト者は、只、これらの諸問題を傍観しているのではなく、聖霊の導きと照らしの下、まさに具体的な行動に移るべきではないでしょうか。

**神と富とに仕えることはできない**

実は、今からちょうど35年前の2月25日、教皇聖ヨハネ・パウロ二世は、広島の平和記念公園で、全世界に向けて力強く教皇「平和アピール」を訴えられました。そのなかで、**「過去を振り返ることは将来に対して責任を担うことです。」**と繰り返し強調なさいました。

　ですから、教会の永い歴史をも、折に触れて振り返ることは、教会の刷新のために欠かせないといえましょう。

　たとえば、新大陸における16世紀にさかのぼる教会の宣教活動は、一体どのように展開されたのでしょか。ほんの一断面ですが、当時のカトリック国であったスペインとポルトガルの教会の宣教活動ですが、なんと、教皇みずからがこれら二か国の勢力領域を分割し、植民地政策を許可し、軍隊と宣教師たちがまさに行動を共にしたのであります。

　そのとき、先住民の側に立って彼らを保護するために命をかけた勇気あるドミニコ会士ラス・カサスの報告によれば、侵略者たちは、新大陸に眠っている黄金への欲望にかりたてられ、従ってインディオの生命などは、全く価値がないと考え、原住民を無信仰ときめつけ、無差別に殺害したり、捕虜にしたり、また彼らから、土地、財産、支配権と物質を奪うことができると信じていたので、良心の呵責など全く感じなかったようです。

　ところで、の福音の締めくくりで、イエスは、次のようにはっきりと宣言なさいました。

**「どんな召使も二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」**と。

　とにかく、教会の過去の歴史を、振り返りながら、これからの歩みを見極める責任は、私たちに課せられているのではないでしょうか。

**より少ないことは、より豊かこと**

　そして、また、われわれ人類の歴史を、振り返るならば、進歩・発展という大義名分のもと、富みに仕え続けてきた結果、この掛け替えのない地球に公害をまき散らし、地球温暖化を招き、、数えきれないほどの生きものを絶滅させ、また、豊かな国々はますます豊かになる一方、貧しい国々はさらに貧困化すという、まさに地球規模の格差と不平等と差別が蔓延しています。

　そこで、教皇フランシスコは、その回勅『ラウダート・シ：共に暮らす家を大切に』で、次のような新しいライフスタイルを、呼びかけておられます。

　**「キリスト教の霊性は、生活の質について全く別な理解を示し、消費への執着から解放された自由を深く味わうことのできる、預言的で祈りに満ちたライフスタイルを勧めます。・・・それは、「より少ないことは、より豊かなこと」と言う確信です。事実、新たな消費がひっきりなしに氾濫し続けることが、まさに心を惑わし、一つ一つの物事を、一瞬一瞬のときを大切にできなくしてしまいます。・・・キリスト教の霊性は、節度ある成長とわずかなもので満たされることを提言します。それは、人生の中で与えられる可能性に感謝するために、自分が所有するものへの執着を捨てるために、無いことに悲しみくじけることがないように、小さなことに立ち止まってそれを味わえるようにしてくれる、あの素朴さへと立ち帰ることです。」（222項）**

今週もまた、この伝統的なキリスト教の霊性を、日々の生活の只中で生きることができるように共に祈りましょう。